

# 在宅医療連携拠点事業（平成24年度まで）

平成23年度 10カ所  
平成24年度 105カ所

## 【背景】

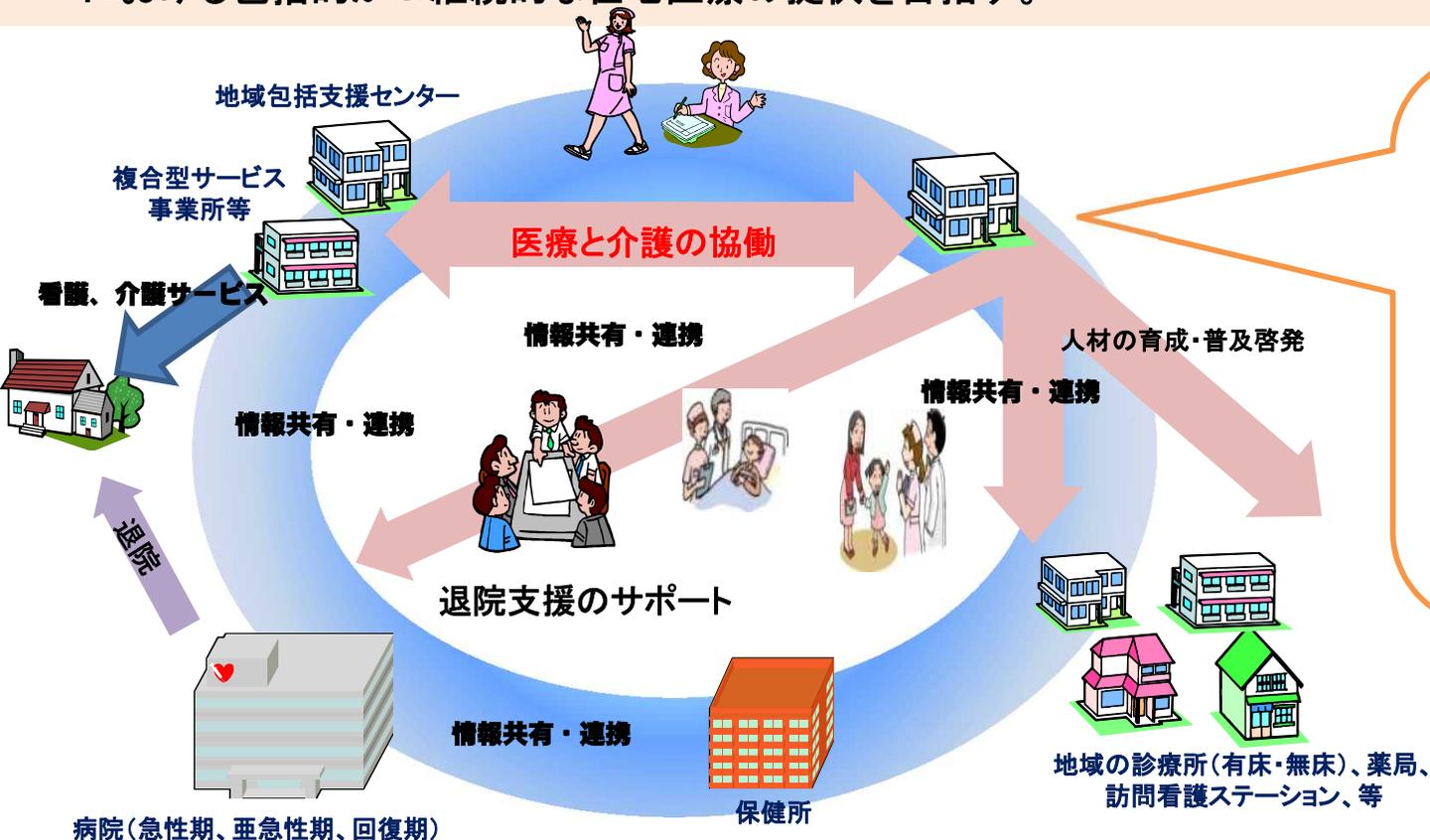
- 国民の60%以上が自宅での療養を望んでいる。
- 特に都市部において急速な高齢化が進展しており、死亡者数は、2040年にかけて今よりも約40万人増加。

## 【在宅医療・介護における課題】

- 在宅医療を推進するには、関係する機関が連携し、医療と介護のサービスが包括的かつ継続的に提供されることが重要。しかし、これまで、医療側から働きかけての連携の取り組みが十分に行われてきたとはいえない。

## 【事業の概要】

- 在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す。



## 在宅医療連携拠点

(療養支援診療所、病院、訪問看護ステーション、自治体、医師会等)

連携拠点に配置されたケアマネジャーの資格を持つ看護師等と医療ソーシャルワーカーが地域の医療・介護を横断的にサポートすることで、病気をもちながらも住み慣れた地域で自分らしく過ごすことが可能となる。

### 【具体的な活動】

- ・地域の医療・介護関係者による協議の開催
- ・医療・介護関係機関の連携促進
- ・在宅医療に関する人材育成や普及啓発

24時間連携体制、チーム医療提供

# 平成24年度在宅医療連携拠点事業 所在地一覧

都道府県	1北海道				2青森県	3岩手県		4宮城県				5秋田県		6山形県	7福島県	7福島県	
市区町村	札幌市 手稲区	札幌市 東区	札幌市 豊平区	夕張市	十和田市	盛岡市	釜石市	仙台市 青葉区	名取市	石巻市	気仙沼市	横手市	潟上市	鶴岡市	東白川郡 塙町	白河市	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
8茨城県				9栃木県			10群馬県	11埼玉県			12千葉県			13東京都			
つくば市	水戸市	水戸市	常陸 大宮市	宇都宮市	小山市	沼田市	幸手市	蓮田市	川越市	松戸市	市川市	柏市	墨田区	板橋区	国立市	新宿区	
17	18		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
14神奈川県			15新潟県		16富山県		17石川県		18福井県			19山梨県	20長野県				
横須賀市	横須賀市	平塚市	長岡市	魚沼市	中新川郡 上市町	砺波市	白山市	金沢市	福井市	大野市	坂井市	中央市	須坂市	佐久市	安曇野市	松本市	
33		34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
21岐阜県		22静岡県		23愛知県				24三重県	25滋賀県	26京都府	27大阪府			28兵庫県		29奈良県	
岐阜市	羽島郡 岐南町	浜松市 天竜区	周知郡 森町	高浜市	名古屋市 東区	一宮市	津島市	名張市	近江 八幡市	京都市 中京区	大阪市 東淀川区	大阪市 東成区	堺市西区	神戸市 北区	神戸市 西区	奈良市	
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	
30和歌山県		31鳥取県		32島根県	33岡山県	34広島県				35山口県	36徳島県			37香川県			
和歌山市	西牟婁郡 すさみ町	米子市	米子市	邑智郡 川本町	新見市	竹原市	広島市 中区	東広島市	尾道市	宇部市	徳島市	徳島市	徳島市	美馬市	綾歌郡 綾川町		
66	67	68		69	70	71	72	73	74	75	76			77	78		
38愛媛県				39高知県	40福岡県			41佐賀県	42長崎県		43熊本県		44大分県			45宮崎県	
松山市	松山市	松山市	四国 中央市	土佐 清水市	北九州市 小倉北区	宗像市	飯塚市	-	長崎市	佐世保市	熊本市	玉名市	別府市	臼杵市	日田市	宮崎市	
79			80	81	82	83	84		85	86	87	88	89	90	91	92	
46鹿児島県			47沖縄県														
鹿児島市	鹿児島市	肝属郡 錦江町	浦添市	中頭郡 北谷町													
93		94	95	96													

※ 平成24年度在宅医療連携拠点事業は全105箇所、96の市区町村で実施した。

# 平成24年度在宅医療連携拠点事業

## 実施主体

実施主体	箇所数	実施主体	箇所数
自治体	14	医師会等医療関係団体	16
病院	32	訪問看護ステーション	10
うち在宅療養支援病院	14	薬局	1
診療所	29	その他(NPO法人等)	3
うち在宅療養支援診療所	28	合計	105

## (1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、地図又はリスト化
- ◆ 更に連携に有用な項目(在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等)も調査し、関係者に配布、ネット上に公表等



### 【効果】

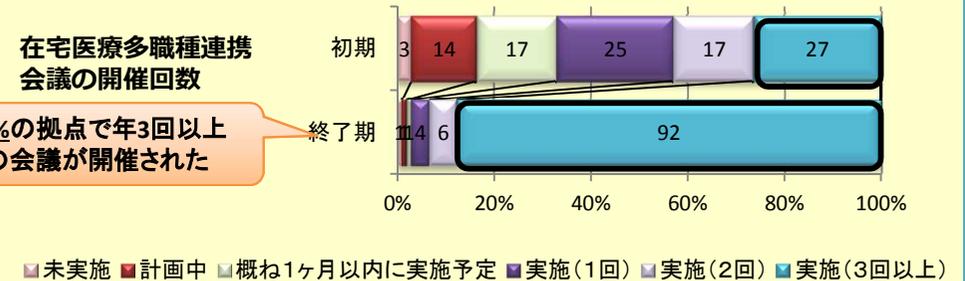
- ◆ 照会先や協力依頼先を適切に選べるようになった。
- ◆ 医療機関への連絡方法や時間帯、担当者が明確になり、連携がとりやすくなった。

## (2) 会議の開催

- ◆ 関係者が集まる会議を開催し、地域の在宅医療・介護の課題を抽出し、解決策を検討

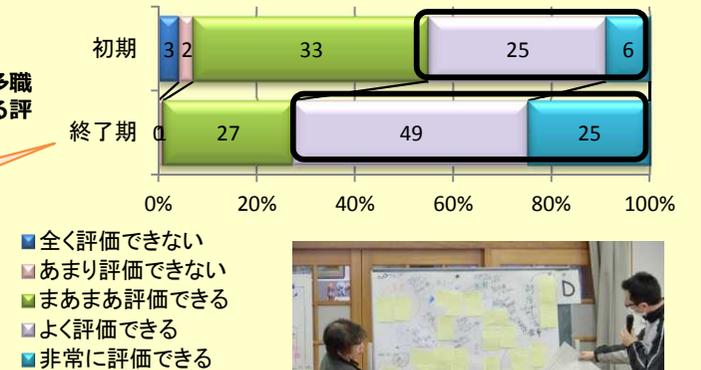
### 【効果】

在宅医療多職種連携会議の開催回数とその評価



### 実施した在宅医療多職種連携会議に対する評価

74%の拠点で会議に対する高い評価を得た



## (3) 研修の実施

- ◆ グループワーク等の多職種参加型研修の実施
- ◆ 訪問診療同行研修の実施
- ◆ 医療機器に係る研修等の座学
- ◆ 介護職種を対象とした医療教育に関する研修等

### 【効果】

- ◆ 介護職、医療職間の理解が促進され、研修に参加した事業所、医療機関等による新たな連携体制が構築できた。
- ◆ 専門医療機関との勉強会等で各職種のスキルアップができた。

# 平成24年度在宅医療連携拠点事業

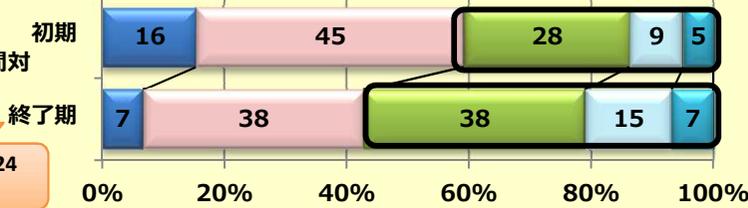
## (4) 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

- ◆ 緊急入院受け入れ窓口の設置
- ◆ 主治医・副主治医制のコーディネート 等

### 【効果】

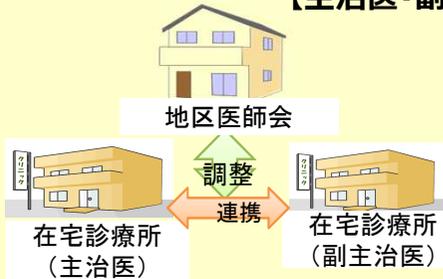
地域における  
かかりつけ医の24時間対  
応体制の構築

24時間対応の在宅医療提供体制



60%の拠点でかかりつけ医の24時間対応体制が構築できた

■ 未構築 ■ 構築不足 ■ まあまあ構築 ■ よく構築 ■ 非常によく構築  
【主治医・副主治医制】



担当医調整様式(例)

板橋区医師会高島平駅前管理ステーション利用希望主治医表

白目分  
私は、協力医を希望します。勤務の可搬性がある場合はその勤務を優先的にさせていただきます。

医師	氏名	性別	年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年	備考
4	医師	先生	男性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
4	クリニック	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
3	医師	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
2	クリニック	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
3	クリニック	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
3	医師	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
6	医師	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科
6	医師	先生	女性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	診療科目: 内科

(板橋区医師会)

## (5) 患者・家族や地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした相談窓口の設置

- ◆ 患者・家族、地域包括支援センターやケアマネからの在宅医療・介護に係る総合的な問い合わせへの対応

### 【効果】

- ◆ ケアプランに必要な医療的支援を位置づけられ、より適切なケアマネジメントが行われるようになった。
- ◆ 医療・介護ニーズが高い方について、各関連施設への連絡・調整が円滑になった。

## (6) 効率的な情報共有のための取組

- ◆ 地域の在宅医療・介護関係者の連絡のための様式・方法の統一
- ◆ 地域連携クリティカルパスの作成
- ◆ ショートステイの空き情報等のネット上のリアルタイム情報の発信

### 【効果】

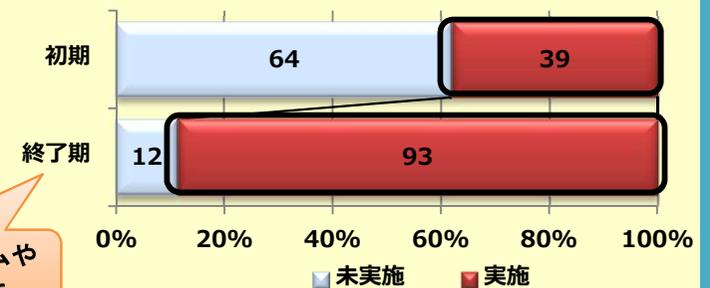
- ◆ 多職種の専門性を生かした質の高いサービスの提供ができた。
- ◆ ICTやメーリングリストを活用することにより、タイムリーな情報共有が可能となった。

## (7) 地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウムの開催
- ◆ 地域住民に対する在宅医療相談窓口の設置(市の施設への設置、病院への設置)
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、ホームページ等を活用

### 【効果】

フォーラム・講演会等の開催



93%の拠点でフォーラムや講演会が開催された

# 平成24年度在宅医療連携拠点事業

## まとめ

- 平成23年度の10ヶ所、平成24年度は105ヶ所の地域において、都道府県、市町村、医師会、在宅療養支援診療所(病院)、訪問看護ステーション等が連携拠点となり、在宅医療において、医療側から介護への連携を図る取り組みを実施。
- 各拠点においては、平成23年度の在宅医療連携拠点事業で得られた知見を活かし市町村と地域医師会が連携を図りつつ取り組みが進められた。
- 拠点事業の効果としては、在宅医療提供機関間のネットワークの構築により在宅医療提供機関数が増加するとともに、重症例への対応機能の強化につながり、在宅医療の充実と在宅医療を含めた地域包括ケアシステムの構築に寄与したと考えられる。
- また、顔の見える関係性が構築されたことで介護関係者側にとっては医療関係者へのアプローチが容易になり、医療者側の介護への理解も深まった。さらに研修会等で介護関係者の医療分野の知識の充実が図られる等を通じてケアマネジメントの質が向上していると考えられる。
- 地域包括ケアシステムの実現のためには、地域において面的に在宅医療・介護連携を展開していくことが不可欠であるが、その推進体制としては地域全体を見渡せ、中立的な立場で関係者間の調整を行うことができる市町村が中心となり、医療側から他職種も含めて地域全体に働きかけやすい医師会等の理解と協力を得て取り組むことが重要であることが改めて確認された。またその前提として都道府県レベルでの関係団体等への働きかけや調整など、都道府県が市町村を支援する体制を整えることも重要である。

# (参考) 平成24年度在宅医療連携拠点事業 (事例)

## 長野県須坂市

### 須高在宅ネットワークの体制の構築

#### ● 須高地域医療福祉推進協議会

3市町村長、三師会長、保健福祉事務所長、3病院長、介護保険施設の代表等

#### ● ネットワーク体制構築

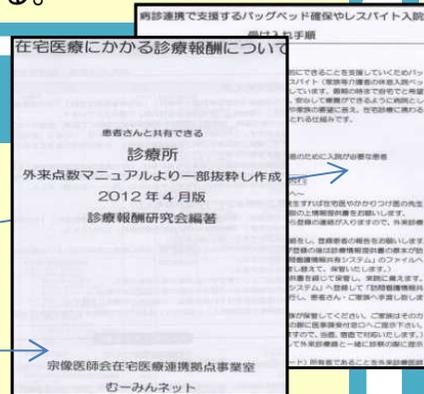
病院：3施設(県立須坂病院・新生病院・轟病院)

診療所：18診療所

訪問看護事業所：6事業所

行政：3市町村(須坂市・小布施町・高山村)

- ◆ 医師会・三病院・訪問看護ステーション・三市町村で住民が24時間安心して在宅療養ができる体制を構築。
- ◆ 緊急対応は、在宅療養支援病院(新生病院・轟病院)と診療所と訪問看護ステーションがチームとなって対応する。



## 福岡県宗像市医師会

#### ● 在宅用診療情報提供書

#### ● バックベッド受け入れ手順書

受診歴のない方の情報を事前に登録し  
緊急入院に備えたバックベッドの体制の構築

#### ● 在宅医療診療報酬

連携の方法と代診の診療報酬算定の取り決め

#### ● 資源ガイド・在宅支援ネットワークマニュアル

薬剤・医療材料供給システム、  
在宅医連携マニュアル  
災害支援情報を作成

#### ● iPadを使った情報共有システム (開発中)



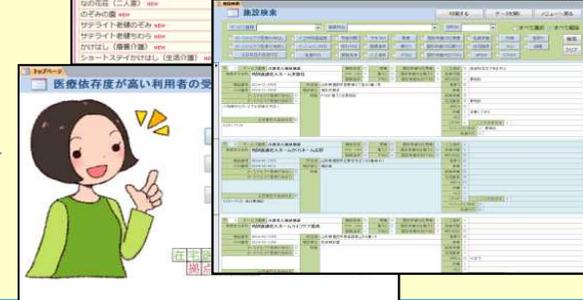
## 山形県鶴岡地区医師会

### 14のアクションプランを計画・実行

- 研修会・意見交換会の開催
- 主任介護支援専門員へのアンケート調査
- 連携シートの作成(ケアマネ⇄医師)
- NET4U(患者情報共有ツール)の利用促進・導入促進

- 行政担当者との定期的なミーティング
- 短期入所の空き情報提供(毎週更新)

- 医療依存度の高い方の施設受入れ情報DB作成



## 東京都板橋区医師会

#### ● 療養相談室によるケアマネ等への支援

困難事例等について居宅介護支援事業所、地域包括支援センターからの相談体制を整備

#### ● 主任ケアマネジャーの会(月1回)の設置

ケアマネ、拠点担当医師、看護師が参加

#### ● Care&Cure会議(月1回)の開催

日常的にチームを組んでいる訪問介護兼居宅介護支援事業所管理者、拠点担当医師、看護師、MSWが参加